



商品開発

×

お菓子のまさおか



×



feat.正岡 崇(お菓子のまさおか)×藤井信二(メムロピーナッツ)

地産地消の商品開発。

芽室町は、北海道内でもトップクラスの農業大国です。まちから少し車を走らせると、辺り一面に広大な畑が広がる風景、ここから生まれ、全国・全世界へ運ばれるたくさんの農作物。ここで生まれ育った私たちには見慣れた日常ですが、これってスゴイこと、誇れることに違いありません。この特色を、中高生と再認識し活用する、地産地消の商品開発を3つ目のプログラムに選びました。



正岡さんと藤井さん。

講師は、100年以上前から続く老舗のお菓子屋さん「お菓子のまさおか」の正岡崇さんと、芽室の新たな特産品として、現在芽室で話題の

「メムロピーナッツ」の藤井信二さんです。



ピーナッツは土の中に！

初回は、畑で収穫体験からスタート。

みなさんは、ピーナッツがどのように実るのか、イメージできますか？

実は土の中で育つんです。花が落ちて地中に実がつくから「落花生」という名前なのだと、藤井さんが教えてくれました。



ついに、ドラピー誕生！



バズる商品を作ろう！

収穫体験の次からは、いよいよ本格的な商品開発です。正岡さんから、「お菓子は無くても生きていけないものではないけど、人を笑顔にすることができるもの。」とのお言葉をいただき、食べた人の笑顔を思い浮かべながら取り組みました。

中には一人で7～8枚のアイデアシートを作る子も。中高生の枠にとらわれない豊かな発想と、真正面から向き合ってくださった正岡さん。今ある機材で作ることができて、原価率が確保される商品開発のリアルに触れつつ、今までにない画期的な商品を生み出すべく話し合いと試食を重ね、どこかなつかしく、それでいて新しい、このチームならではの新品が出来上がりました！



完成した商品の名前は「ドラピー」。中高生が名付け親です。中華まんじゅうの生地にピーナッツ入りクリームを挟み、ピーナッツを振りかけるダブルピーナッツ仕立てのお菓子です。

コロナの影響で、中高生自身での対面販売はやむなく見送り、お菓子のまさおかさんの店舗にて、数量限定で販売していただきました。開店前からお並びいただき、スタートから約30分で売り切れるという予想以上の大反響！たくさんのお客さんに喜んでいただきました。



手島町長にも試食を。
おいしくいただきました！



なんと
最後のお客さんは、
ジモト大学メンバーの
もねちゃん。

